

沖縄平和の旅 (8) おまけ

沖縄平和の旅に参加を決めたもう一つの理由は妹が那覇で働いていて、彼女に会いたかったからです。それで、もう1泊することにしました。



ツアーの皆さまと国際通りでお別れしてから、私たちは世界遺産の首里城へ向かいました。2度目の訪問です。首里城は中国と日本の建築様式を取り入れた美しいお城とのことですが、石垣の端のソリが何とも魅力的で独特なのではないかと感じます。ちょうど琉球舞踊が演じられていました。静かな優美な舞です。ド・ミ・ファ・ソ・シドの琉球音階も個性的です。首里城は純粋に宮廷のような雰囲気でした。



友人から勧められて、那覇港のディナークルーズ船「モビーディック」号を予約しておきました。ところが残念ながら目当ての歌手は休みで、隼(jun)さんのライブでした。ディナーを楽しみ、彼の三線、ギターに合わせて、沖縄民謡カチャーシーの手踊りをしてみました。要領は、女性は両手を広げ、襖を上品に開け閉めするように、左右に振ればOKとウエイレスから習って、さっそく真似ました。隣の席の若い女性から「上手ね」という微笑みを受けました。船から夕陽を眺め、ロマンチックな黄昏を満喫。



次の日、妹の素敵なマンションを見てから、彼女の職場を訪ねました。妹はサマリヤ人病院というキリスト教主義による老人科、精神科専門の病院、付属の施設のチャプレンと、その敷地を利用している教会の牧師をしています。沖縄は精神科の患者が多く、それは沖縄戦との関連性が推測されるようです。沖縄ではクリスチャン人口が3%、超教派で協力して活動しているとのことです。



妹の運転で沖縄ワールドの天然記念物、30万年の自然の営みでできた玉泉洞という鍾乳洞に行ってみました。サンゴを主成分とする様々な種類、形の鍾乳石が全長1kmほど繋がっています。不思議で見事な景観を見せています。日光が当たれば白く輝くそうですが、地下の世界ですから、不気味さもありました。国内最大級の鍾乳洞とのことです。



ここでのもう一つのお楽しみはエイサーです。先祖の霊を送迎する夏祭りの踊りで、大太鼓、小太鼓を手を持って、回転し、見得を切りながら、勇壮に踊ります。これは体力を要する踊りです。獅子舞も加わったり、それに翁、媼の絡みもあったりで、観客を楽しませてくれました。観客にカチャーシーを踊らせる時間もありました。沖縄ワールドでは植栽を熱心に行っているらしく、肥料の匂いも強烈にしました。自然を大事にしているのですね。



帰り道、南風原(はえばる)文化センターに寄りました。戦中の生活の様子、沖縄戦の実物資料や、模型を展示しています。このすぐ近くに沖縄陸軍病院南風原壕があります。女学生たちは看護をし、砲弾の飛び交う山道をこの壕まで2人一組で天秤棒で食糧を担いで運ぶ「飯あげ」という作業をしたのです。私たちもその急な坂道を登り、壕を見学しました。そこは人工的に掘って作ったかなり大きい壕で、専門のボランティア・ガイドが案内してくれました。このような暗い通気のない場所で、どんな手術が行われたのでしょうか。チケットに「切り落せし兵の脚をば埋めにゆく 女子学生ら唇噛み駆ける 長田紀春」と歌が記されていました。むごいという思いのみ、迫ってきました。

妹と良いひと時を過ごした後、彼女は普天間基地のゲート前での抗議のためのゴスペル集会へ、私も沖縄の民意を伝えたい思いを胸に、機上の人となりました。マタヤーサイ！(またね！)